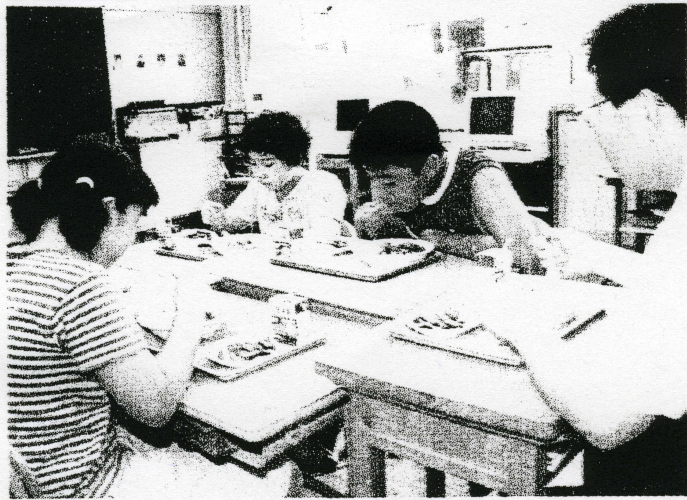


03.09.02
読売

町内産新米で給食開始

椎田・小原小 “地産地消”の要望に応え

小中学校で二期がスタートした一日、椎田町の小（原小（木藤礼子校長、十一のトップを切って、町内産の新米を使った給食が始まった。））では、町内六小中学校



新米を使った給食を味わう児童ら

同町ではこれまで、給食に使う米を県学校給食会を通じて購入していたが、住民の「地産地消」を求める声が高まったため、新学期から町内産に切り替えることにした。給食米は、地元の農家六軒に「夢つくし」の生産を委託。各校が直接、農家から購入し、年間約十四・四斗の消費を見込んでいる。

この日のメニューは、夏野菜のカレーと枝豆、青リンゴのゼリー。カレーの具には、学校の菜園で収穫したタマネギが使われ、子供たちは炊きたての新米とともに味わった。

五年生の前田博哉君(11)は「以前の米よりも、ふっくらしていておいしい」と喜んでいった。

八津田、葛城、西角田の各小は二日から、椎田小と椎田中は三日から町内産の新米を使った給食が始まる。米飯給食は各校とも週三回実施される。